



育子園のうさぎ
みみちゃんの
みみよりHOT ニュース

① 将来の入試科目は、問題解決力とコミュニケーション能力？



①

◎ 朝日新聞に「見守る保育」の記事が掲載されました ◎

2011年1月10日の朝日新聞朝刊「幼児教育」の特集に「見守る保育」と題して、提唱者である新宿せいが保育園と藤森園長先生のインタビュー記事が掲載されました。

たとえば、けんかも子ども同士での解決が基本です。トラブルが起こると部屋の一角に設けられた「ピーステーブル」に移動し、自分の気持ちを言葉で伝えあい解決します。幼児教育は学びたいという意欲と探究心を育てること、知識教育は8歳以降でよいのです。知識を詰め込む『早期教育』では、学問の楽しさや不思議さは分かりません。受験のために暗記した知識は、インターネットで調べれば分かるようになりました、今の子ども達が18歳になる頃には、入試科目は「問題解決力」と「コミュニケーション能力」になると予想しています。と藤森先生はおっしゃっています。

★新聞記事は、1階事務室前の掲示板に貼ってあります。

★「見守る保育」は、新宿せいが保育園 藤森園長主宰のギビングツリーが提案している保育です★

～ シリーズ「見守る保育」～

保育園も職場組織ですから、大人同士の関係がとても大切です。日本と朝鮮半島等で行われている一人担任による年齢別一斉保育の現場では、職員同士は「競いあう関係」になりやすいと分析されています。

たとえば隣のクラスより見栄え・出来栄の良い発表会の出し物にしようとか、隣のクラスより早くカリキュラムを達成させようなどという発想に陥りやすいのです。そういう時は子どもの意思や意欲よりも、どうも大人主導になっていることが多いようです。

クラスの上には年齢を統括する職員、さらにその上には全クラスを統括する職員が存在するピラミッド型組織になっている、いつも上の顔色をうかがって保育をしているようです。

ところがOECDが推奨している数種類の保育や育子園で行っている子ども主体・子ども中心の「見守る保育」では、職員同士は競いあう関係ではなく「学びあう関係」に自然となっています。

それは職員「同士」よりもさらに向上した「同志」だからでしょう、「同士」はいわゆる仲間という概念ですが、「同志」は志を同じくする者です。

保育理念という「志」を柱にして子どもが居心地の良い保育とは何かを

求めていると、学びあいスパイラル状態になっていくようです。

(2010.12.17 育子園ホームページ 園長ブログより)



2011. 1. 15 職員研修会の様子

クラスだよ！

おには そと～



年長さんと遊んだり、園の行事にも参加したりと、たくさんのお友だちや先生とふれ合うことで、どんどん成長していくつぼみ組★最近、節分が近いからか。「おにはそと～！」とボールを投げて楽しんでいます。

〔つぼみ組〕

「は・あ・い！」



「ふじ組さ～ん」「は・あ・い」「あじさい組さ～ん」「は・あ・い」と元気いっぱい返事をする子ども達★「お外に行こう！」の声に大喜びのみんなはジャンパー・靴下・帽子を自分で張り切って用意します★「自ら！」という気持ちを大切にしながら、「出来た！」という喜びを共感しています★真冬の寒さに負けず、思いっきり走ったり、身体を動かして外で遊んでいます。

〔ふじ・あじさい組〕

「見に来てネ」

たんぽぽ・きく組では、生活発表会に向けて、各クラスで楽しく劇遊びをしています★自分の好きな役を選んで、お友だちと一緒に楽しく練習しています★大好きなお話なので、時には、子どもから自然に劇遊びをすることもあります★本番では、恥ずかしがらずにいつも通りに、できればいいですね。

〔きく・たんぽぽ組〕

発表会いつでも OK!

生活発表会に向けて、自分の選んだ演目をとっても楽しそうに演じています★本番が待ち遠しいのか「あした発表会？」と聞く子どももいます。



〔にじぐら-7〕

正月や 羽子(はね)の音する 路地の空

年明け後は、お正月あそびでもある羽子板が最近のブームです★カン・コン♪と軽快な音が園庭に響き渡り、楽しんでます★真冬の寒さにも負けず、元気よく外で遊ぶ子ども達が、とてもまぶしいです★そして、発表会に向けての練習に取り組む中、自分が選んだものを、大好きなお父さん、お母さんに見てもらおうだ！と張り切っています。



〔そらぐら-7〕



第一条 約束を守る
《子育てしぐさ十ヶ条》より
日本人の心と体にしみ込んで生かされてきた、素晴らしい智慧の数々……
いま話題の『子どもが育つ江戸しぐさ』よりご紹介させていただきます。

江戸商人の約束は、西洋ビジネスマンのように契約文書を交わさずとも、いったん口から出した「口約束」は紳士協定に等しく、約束は死守しました。
約束は「死んだらごめん」で、必ず守るという決意表明でした。これは子ども達にも徹底していました。

子ども達は、日が暮れて家に帰る時「また遊ぼうね」と約束し、「指切りげんまん、うそついたら針千本飲ます」と指をからませた後、「死んだらごめん」と言ったそうです。
この「げんまん」の意味は「げんこつ一万回(拳万)」のことだとか。江戸しぐさが遊びに残っているただ一つの例のようです。
小さな約束を忘れずに守る人は、信用できる人です。口約束を覚えていて実行する江戸しぐさがあるかないかは、人間評価の目安になると思います。